

研究分野のキーワード：“Action Research”，“Lesson Study”，“Curriculum Management”，
”EdD の成立背景”，“Service-Learning”

研究紹介

私のこれまでの研究は博士論文に集約されています。タイトルは「アメリカにおけるカリキュラムマネジメントの研究 -Service-Learning の視点から-」でした。これは学校の教師として 15 年間勤務し、同時に博士課程に在籍しながら、アメリカでの調査も含めての集大成でした。

しかし、これはアメリカ教育学の知見を「輸入する」研究スタイルに過ぎず、どことなく研究の限界を感じていました。

そこで現在（ポスト D 論）では、海外から評価される日本の教育実践を考えながら、教育実践の現実に密着して改善を進め、日本の学校マネジメント、及び教師実践を「輸出する」研究スタイルへ転換しました。

具体的には、“Action Research” 「教師の、教師による、教師のための研究」、及び“Lesson Study”と “Curriculum Management” 「校内研修・授業づくりを通じた学校づくり」に関する理論と実践を研究中です。また、現在最も力を入れていることは、国際学会活動ですが、その国際学会では実証性が求められるので、量的分析（因子分析・重回帰・パス解析・HLM）等や、間主観による質的分析(Discourse/Narrative 分析・GTA)等の研究方法論も研究中です。

（同時に、国際学会活動には英語力のブラッシュアップも大切です。Native に負けないぐらいの英語力を身に着けたいですね。）

更に、学術 PhD（大学院の博士号）とは異なるアメリカの EdD（教育実践の博士号）の研究も継続していきます。EdD は教育実践に基づく博士課程の学位ですが、その成立背景、カリキュラムの実態、及び学位論文の傾向を整理していきたいなと思案中です。一方、これまで博士論文で研究してきた Service-Learning を学校や大学に援用し、生徒・学生の「市民性や Self-Esteem」の育成を実践・実証したいとも思っています。

以上のことから、現在は教職大学院（学校の先生、又は教師に絶対になりたい人の大学院）で教えていますが、その目標は「理論的言語」と「実践的言語」に精通する「Bilingual の育成」にあると思っています。それが現在の座右の銘です。